

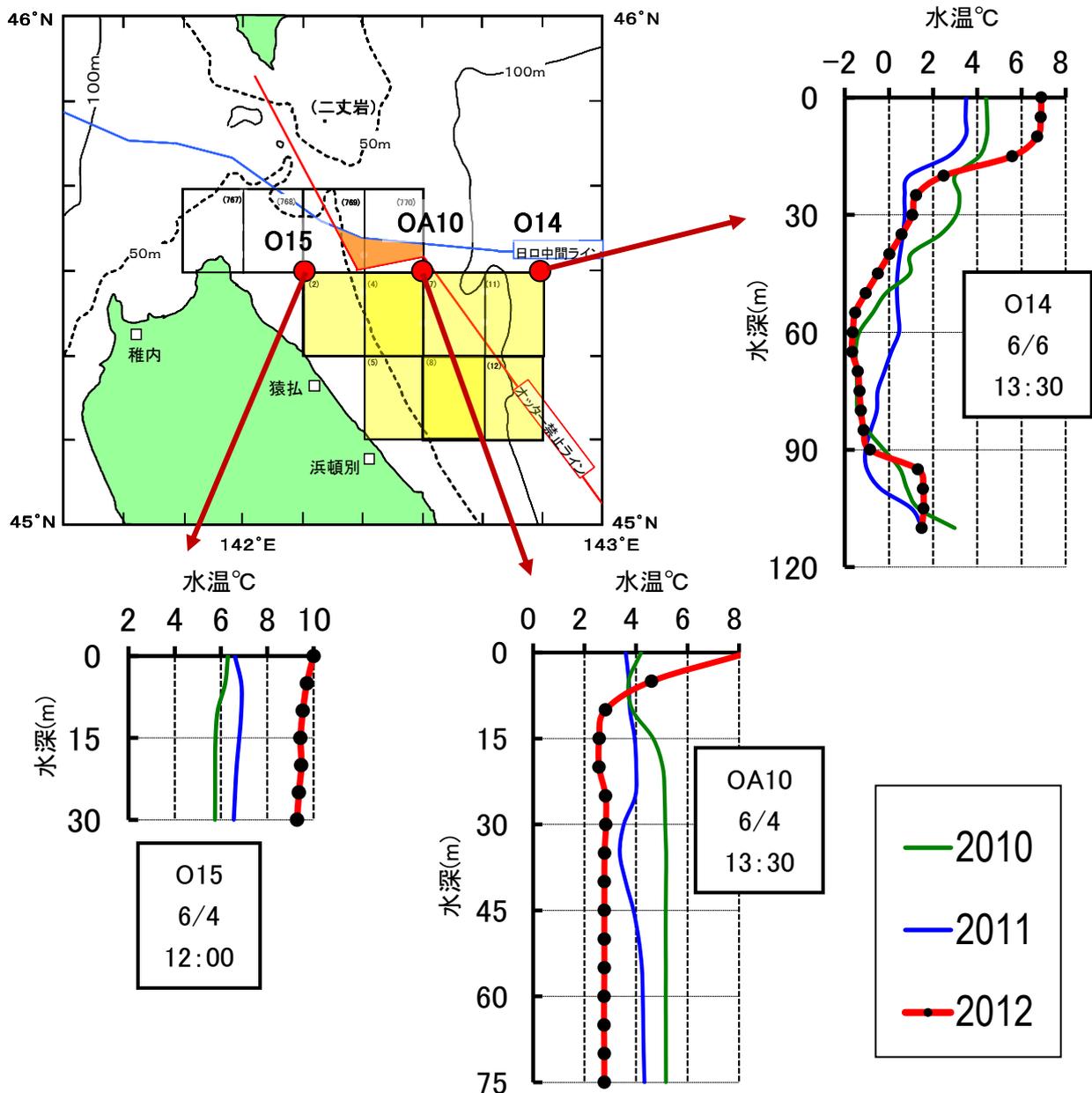
イカナゴ情報(2012年6月)No.1

平成 24 年 6 月 15 日, 稚内水産試験場調査研究部, Tel 0162-32-7166 担当: 板谷

宗谷海峡東方海域の通称ポケット周辺海域の水温速報および昨年までの漁獲状況(サイズ, 年齢組成等)をお知らせします。

【漁場水温観測: 北洋丸による調査】(底水温 2.8°Cと低め:0A10)

6月4日にポケット海域付近で北洋丸による水温観測を実施しました。宗谷岬東方の015では表層から底層まで8°C以上となっていますが, ポケット漁場南東の定点0A10では底水温は2.8°Cで, 例年よりもかなり低い状況でした。さらに東方の014では水深60m層にマイナス水温の冷水が差し込んでおり, ポケット漁場周辺は冷水の影響を例年よりも強く受けている模様です。



【昨年度までの漁獲状況】

昨年度（H23年、2011年）のオホーツク海における沖合底曳き網（枝幸、紋別含む）によるイカナゴの漁獲量は6.1千トンで、H22年度より大幅に減少しました（図1）。

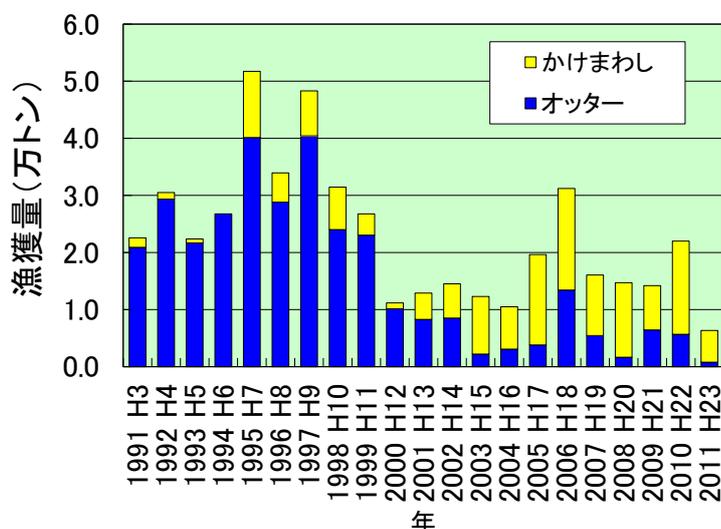


図1 オホーツク海のイカナゴの漁獲量

【昨年までの年齢組成】（図2）

昨年2011年（H23）の年齢組成は例年では漁獲主体となる2歳魚（2009年級群 ■）が振るわず、このことが漁獲の低迷した主要な要因と考えられます。2歳以外の年齢の漁獲尾数も多くはなく、特に、漁期前半に主体となった3歳魚（2008年級群 ■）は、予想されたほど漁獲が伸びませんでした。

一方で、どの年齢も、例年と比べて漁獲が伸びなかったことから、イカナゴ魚群の漁場への来遊量自体が少なかったことも考えられます。

今後、水産試験場では、漁期中の魚探調査や漁獲物のサイズ組成調査などを通じて、動向を注視していきたいと思っております。

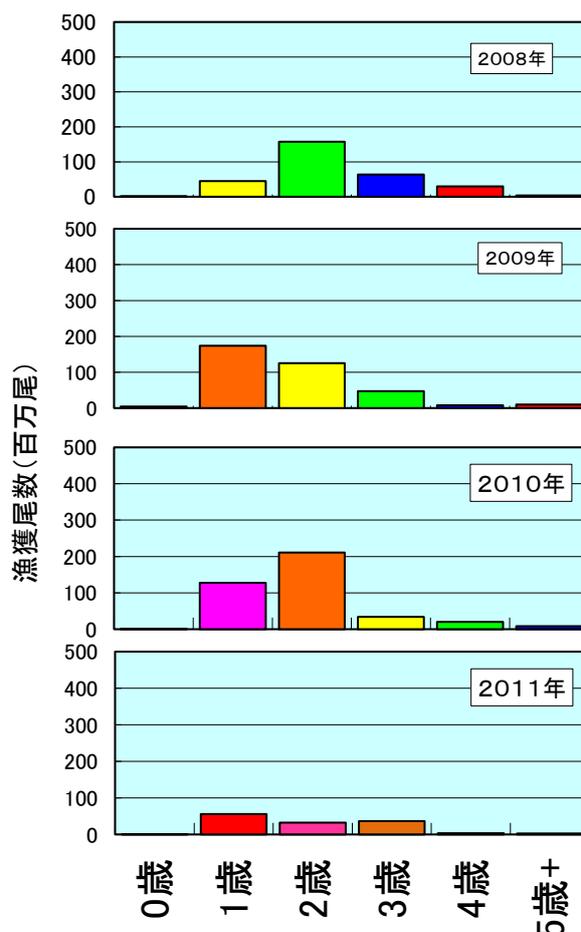


図2 年齢別漁獲尾数（百万尾）